

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」認定

Siデータサイエンス教育プログラム

Si(Socio-Intelligence)は、本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を表現しています。

* 「Siデータサイエンス教育プログラム」は、令和4年度以降入学者が対象です。

「データサイエンス？ 私たちに関係あるの？」と思いませんか？

情報化が進んだ現代においては、日々の社会活動の中で、ソーシャルメディアでのつぶやきのデータ、人々の位置データ、日々の購買データなど膨大なデータ（ビッグデータ）が集められ、蓄積されていきます。そういったビッグデータから、統計的手法やAIなどを駆使して、これまでは分からなかった有用な知見を引き出すことに成功しつつあり、それによって社会的課題を解決することができるようになってきました。このようなことがデータサイエンスです。

政府は、「AI戦略2019」で、文理を問わず全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、正規課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを修得すること、さらに、一定規模の大学・高専生（約25万人卒/年）が、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得することを目標に掲げました。

データサイエンスに関する基礎的知識は、進化したデジタルなどによる生活その他の変革を意味するDX（デジタルトランスフォーメーション）の進む未来において、不可欠な能力となるでしょう。

基礎リテラシーレベルは、情報入門1、情報入門2の単位修得でプログラム修了を認定！（*1）

1年次から履修できる情報入門1・情報入門2の単位修得^{*1}により、基礎リテラシーレベルの修了を認定します。社会から求められるデータサイエンスに関する基礎知識を有することが証明されますので、就職活動などでアピールできます。

さらに、令和5年度以降入学者^{*2}からは、基礎リテラシーレベルの内容をさらに深く・広く展開して学ぶための応用基礎レベルの開講科目を履修することができ、所定の科目の単位を修得することで修了が認められます。

*1 学部（学科）により、情報入門1・情報入門2以外の科目の場合があります。詳しくは裏面を参照してください。

*2 令和4年度入学者は基礎リテラシーレベル、令和5年度以降入学者は基礎リテラシーレベルと応用基礎レベルの対象となります。

ただし、ネットワーク情報学部に関し応用基礎レベルは平成31（令和元、2019）年度以降入学者から対象となります。

修了証はオープンバッジで！

「Siデータサイエンス教育プログラム」修了者には、各種検定試験でも導入が進むオープンバッジで修了証を発行します。

「オープンバッジ」とは、国際的な技術標準規格のデジタル証明です。ブロックチェーン技術により、オンライン上で簡単かつ瞬時に有効性を検証できるため、信頼性の高い証明となります。SNSやメールの署名、履歴書などに貼り付けて、修得した能力や知識を証明することで、就職活動や進学などで対外的にアピールできます。

Society 5.0の時代を生き抜くために！

皆さんはChatGPTを使ってみたことはありますか？公開されて大きな話題となった時、私はさっそく試してみました。指令を出してわずか数秒後、驚くべきスムーズさで雄弁な回答が出てきて、あやうく感動しそうになりました。でも、よく見ると、あちこちに間違いや無理な論理展開があったので、AIに丸投げはいけないし、これを使う人間の責任は重いと感じたことを覚えています。

Society5.0（※IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値が生み出される社会）と呼ばれる時代が到来し、生成AI等のテクノロジーが日常生活にも広く浸透している中、好むと好まざるとに関わらず、数理やデータサイエンス、AI等に関する基礎的知識・理解は必須になっています。

皆さんがこのプログラムを修得し、それぞれの専門分野の学修へと有機的に結びつけてゆかれることを期待しています。

専修大学長 佐々木 重人



